

令和7年度実施事業 課題対応取組み一覧表

【総合相談窓口(ランチ)】

区名	ランチ名	No.	カテゴリー	活動テーマ
北区	梅田東	1	地域や専門職とのつながり等	高齢者のニーズ把握、早期発見の為のネットワーク構築活動
	豊崎	2	認知症高齢者等の支援	地域でつながり、安心して自分らしく暮らす。
此花区	春日出	3	地域や専門職とのつながり等	地域から孤立しがちな高齢者の予防支援策として地域支援関係者と連携を図り、ネットワークを構築する(継続実施)
西区	花乃井	4	社会資源の創設(居場所づくり等)	高齢者の参加と孤立予防、早期に相談につながるための取り組み
港区	港南	5	社会資源の創設(居場所づくり等)	知り合いが増えるまちづくり～健康づくりから、世代をこえてつながる居場所づくり～
	市岡東	6	社会資源の創設(居場所づくり等)	身近な場所に相談窓口を作る
	築港	7	地域や専門職とのつながり等	『会話から始まる地域福祉』～つながり・見守り・支え合いのまちづくり～
浪速区	浪速	8	地域や専門職とのつながり等	地域住民と一緒に、繋がりというセイフティーネットを作り、相談者に出会う。
	日本橋	9	地域や専門職とのつながり等	住み慣れた地域で安心して住み続けられる人との関係づくりを図る
生野区	生野東	10	地域や専門職とのつながり等	地域との関係づくりを通じた総合相談窓口(ランチ)(以下「ランチ」という)の周知と相談支援体制の強化
	田島	11	社会資源の創設(居場所づくり等)	認知症カフェ開催を通じた地域の身近な集いの場づくり
	新生野	12	地域や専門職とのつながり等	地域住民が早期相談できる顔の見える関係づくり
	新巽	13	地域や専門職とのつながり等	高齢者の孤立を予防する
阿倍野区	昭和	14	地域や専門職とのつながり等	誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり ～効果的な周知と早期介入の仕組みづくり～
	高松・文の里	15	地域や専門職とのつながり等	気づき合い、支え合い、つながる地域へ
住之江区	新北島	16	自立支援・介護予防・健康づくり等	かなえる棒体操・ランチの周知
	加賀屋	17	その他(防災への取組み)	地域住民に向けた、防災・減災に対する小単位勉強会の実施
東住吉区	白鷺	18	地域や専門職とのつながり等	地域内における支援機関との協働・早期相談、支援にあたる
	矢田東	19	地域や専門職とのつながり等	早期に相談してもらえるよう地域とのつながりを強め、身近な相談窓口として活動する
	矢田西	20	地域や専門職とのつながり等	高齢者を主とした地域住民との「顔の見える関係」の構築
西成区	あいりん	21	社会資源の創設(居場所づくり等)	ひとり暮らし高齢者の居場所をつくり、関係機関とつながる事で支援の輪を広げる
	成南	22	認知症高齢者等の支援	認知症高齢者の理解と対応
	南津守	23	地域や専門職とのつながり等	高齢化が進む地域への支援体制の構築
	梅南・橘	24	社会資源の創設(居場所づくり等)	「身近な集いの場の発展から、地域住民がつながるまちづくり」
	天下茶屋	25	社会資源の創設(居場所づくり等)	高齢者を地域につなぐ通いの場づくり
	山王	26	自立支援・介護予防・健康づくり等	楽しさを共有する活動、支える側としての活動を創出し、頼りにされる市民に

課題対応取組報告書

名称	北区梅田東地域総合相談窓口				
提出日	令和	8	年	5	月 27 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（		）
活動テーマ	高齢者のニーズ把握、早期発見の為のネットワーク構築活動			
地域ケア会議から 見えてきた課題	・認知症高齢者や身寄りのない高齢者が孤立した状態で生活している世帯も多い。本人、家族の理解力不から家族間で解決しようとしているケースや高齢者自身も子供に迷惑をかけたくないという思いから支援を望まないケースも多い。問題が複雑化して発見されることが多くなってきている。 ・町会に未加入である等の理由より地域での実態把握が難しく、民生委員や地域住民などの住民組織からの情報も得にくい状況となっている。			
対象	住民、民生委員、地域福祉コーディネーター、北区社会福祉協議会、北区地域包括支援センター（以下「北区包括」という）等			
地域特性	・担当圏域は梅田周辺の6地域で高層マンション、商業エリア、古い町並みが混在した地域である。北区人口の9割がマンション等での生活となっており、梅田東・済美・堂島・中之島地域の高経年のマンション等では住人の高齢化が進んでいる。特に扇町市営住宅の高齢化率は非常に高い。 ・担当地域全てで百歳体操が立ち上がり、徐々に地域活動も活発になってきている。梅田東・済美・北天満地域では高齢者も多く、地域活動は活発である。堂島・曽根崎地域は高齢者人口が少ないものの、体操などの地域活動は定期的に行われている。中之島地域は小中一貫校の会議室を借りて地域活動が開始され少しづつではあるが百歳体操の参加人数も増えてきている。			
活動目標	・高齢者のニーズを掘り起こす為、マンション管理人、高齢者の利用の多い郵便局、医療機関を訪問し、総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）の周知活動を行う。 ・担当6地域の地域活動（百歳体操、ふれあい喫茶、オレンジカフェ、食事サービス、民生委員協議会等）へ定期的に参加し、ランチの存在や活動内容の周知を行い、参加住民や民生委員、地域福祉コーディネーター等と顔の見える関係性を構築し、相談支援がしやすい環境作りを目指す。			
活動内容 (具体的取組)	1.ネットワーク構築活動訪問 ①マンション訪問アプローチ(訪問件数24棟、延べ46回) ・過去に個別相談のあったマンション・アパートを中心に管理人室へ訪問、ランチの役割を説明、ランチチラシを配布、掲示板へ掲示依頼、配架依頼、住人の近況確認などを行った。梅田東地域のマンションでは「フレイルと栄養」の講演会も開催することができた。 ②郵便局訪問（訪問件数3局、延べ3回） ・高齢者の利用が多い郵便局3局を訪問しランチチラシを配布、認知症など気になる高齢者や家族に対し、チラシを渡していただく依頼を行った。継続していくことで郵便局とのネットワーク構築を目指している。 ③医療機関訪問（訪問件数10件、延べ11回） ・担当地域の高齢者が通院、入院している診療所や病院を訪問しランチチラシ高齢者虐待防止リーフレットを配布し相談窓口の周知・啓発活動を行った。 ④住民、地域関係者とのネットワーク構築 ・済美地域、北天満地域民生委員協議会、中之島地域役員会へ参加し情報交換、共有。 ・梅田東地域、済美地域のふれあい喫茶、北天満地域の食事サービスへ参加し、女性会、地域福祉コーディネーター、住民と交流。 ・堂島・中之島地域での10分脳活と出張相談会。 2.地域活動への積極的な参加 ①ふれあい喫茶、食事サービスへの参加 北天満地域の食事サービス、梅田東・済美地域のふれあい喫茶、済美地域の認知症オレンジカフェに参加し、地域関係者と情報共有や住民とコミュニケーションを図り、介護保険申請相談や地域での見守りに繋げている。 ②百歳体操への参加 担当圏域6地域で開催されている体操に月1回参加し、地域関係者との情報共有や参加者・住民へ身近な相談窓口としての周知を行っている。その中でも梅田東・済美・北天満地域の百歳体操では、区保健福祉センター保健師・済生会法人内の医師・看護師と協働で体操前の血圧測定を実施しを継続しており、健康状態の把握と早期発見できるよう努めた。 ③脳活性化プログラムの実施 認知症予防の取組として脳活性化プログラムを定期的に3か所（梅田東・北天満・堂島）で実施、認知症予防とランチ周知、参加者からの相談受付に取り組んだ。中之島地域でも、適宜脳活性化プログラムを実施した。			

成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	1.ネットワーク構築活動 ・マンション訪問では、管理人との顔の見える関係性を築けたことで些細な情報でも共有してくれるようになり、少しづつではあるが周知の効果が出てきている。郵便局は個人情報もあり直接の相談はなかったが、チラシを掲示してくれたり、ランチ窓口の案内の声掛けなど周知活動にもご協力いただいた。医療機関訪問では通院が途絶えていた住民の相談があったことで、自宅訪問し、介護保険申請と訪問診療・介護サービスへ繋げることができた。民生委員協議会へ出席することで、気軽に声をかけてくれるようになり、民生委員からの相談や情報共有も増加した。 2.地域活動への積極的な参加 ・地域のふれあい喫茶に参加に継続して参加することで住民との何気ない会話から家族の相談を受けた。後日自宅訪問し介護保険申請や介護サービスへ繋げることができた。
今後の課題	・これまでの地域活動を継続し、顔の見える関係性を構築しさらなるネットワーク構築を目指す。 ・個人情報の観点から実態把握が困難な場合もあり、区役所や地域包括センター等と連携しながら問題の早期発見、解決を図る。 ・介護保険の申請へ繋がっても介護サービスに繋がらないケースも多く、他機関への情報共有や見守りネットワーク等の構築の検討が必要であると考えている。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 8 年 7 月 21 日 (火)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	積極的に地域に出向き、様々な地域活動への参加や、マンションアプローチを続けている。顔の見える関係の構築により相談窓口の周知活動にもつながり、地域からの相談や高齢者からの直接の相談も増え、浸透性・拡張性のある取組である。 郵便局や医療機関の訪問や地域活動への参加にてランチの担う役割や取組を周知され、実際に個別支援につながったケースもあり地道な活動が地域に広がっており、浸透性・拡張性のあるランチの専門性をもつ取組として評価できる。 今後も活動を継続し、高齢者人口の少ない地域でも、地域特性をふまえた更なるネットワーク構築ができるよう期待する。

課題対応取組報告書

名称	北区豊崎地域総合相談窓口（ランチ）					
提出日	令和	8	年	6	月	1 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☒ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	地域でつながり、安心して自分らしく暮らす。	
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域ケア会議では、80代女性の単身世帯が目立ち、要介護1の状態でありながら認知症や精神疾患により日常生活に支障をきたしているケースが多数見られました。特に本庄地域での開催が多かった点も特徴です。認知症進行による金銭管理や医療受診判断の困難、家族関係の希薄化・疎遠による支援者の不在、障がいを持つ家族が支援を拒否するため適切なサービス利用が阻害されるケースなど、複合的な課題が浮き彫りになりました。また、家族自身に支援が必要な世帯も確認され、成年後見制度の活用タイミングや、弁護士・司法書士等への福祉・介護理解の促進、障がい福祉と介護の連携、送迎手段の確保、本人のモチベーション維持といった点が重要な課題として挙げられています。さらに、認知症と虐待の関連性や、第二のキーパーソンづくり（別居家族へのアプローチ）の必要性も指摘されました。	
対象	本庄・豊崎地域の高齢者およびその家族・関係者	
地域特性	本庄・豊崎両地域は、流動人口と高齢者人口がともに増加傾向にあり、住民の約9割がマンション居住者です。大規模マンションの建設が進むことで転入・転出が活発であり、従来からの地域ネットワークが希薄化しやすい環境にあります。このため、新たに地域に入った高齢者や単身世帯が孤立しやすく、認知症や複合課題を抱えながらも周囲とのつながりが十分に得られない状況が生じています。	
活動目標	高齢者や家族が地域資源を活用し、孤立を防ぎながら安心して暮らせる体制を構築し、認知症高齢者等の複合課題への対応力を高める。	
活動内容 (具体的取組)	今年度は、昨年度に引き続き自宅で手軽に取り組める運動チラシの作成・配布と動画配信を継続するとともに、新たに「地域の相談員が教えるホントの終活」セミナーを実施しました。参加者からは「さらに詳しく聞きたい」との声が上がり、終活に関する関心の高さがうかがえました。 本庄会館では月例の「ふれあい喫茶」と連携した相談会を継続開催し、周知にはチラシ掲示・ポスティングに加え、登校児童見守り隊への参加を通じて地域住民への声掛けを強化しました。 また、本庄地域の食事に毎月参加し、終活、詐欺防止、認知症予防、成年後見制度に関する講話や、障がい福祉との連携を意識した情報提供を積極的に行い、家族支援の観点から第二のキーパーソンづくりを意識したアプローチも試みました。地域ケア会議で明らかになった課題を踏まえ、個別相談では医療・介護・障がい福祉機関との連携を強化し、きめ細やかな情報提供に努めました。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	「地域の相談員が教えるホントの終活」セミナーでは参加者から追加開催を望む声が寄せられ、終活や成年後見制度への関心が高まっていることが確認できました。本庄地域の食事会での定期的な情報提供も、認知症予防や詐欺防止への意識啓発に寄与しました。 相談会はふれあい喫茶との連携により継続開催され、新規相談や中断していたケースの再相談が増加しました。見守り隊参加を通じた声掛けにより、地域住民からの「心配な高齢者」の情報提供が活発化し、早期対応につながる体制が強化されました。 成年後見制度講話では「相談先が分かった」「タイミングが重要だと理解できた」といった感想が聞かれ、財産管理や身上監護の不安軽減に貢献しました。また、運動チラシや動画は自宅中心の高齢者層に届けられ、健康意識の向上とフレイル予防のきっかけを提供しました。これらの取組を通じて、地域でのつながり強化と複合課題への対応力が向上し、目標である「安心して自分らしく暮らす」環境づくりに一定の成果を上げることができました。	

今後の課題	成年後見制度の周知は進みつつあるものの、相談先が分からない世帯への広報のさらなる強化と、弁護士・司法書士等への情報提供が引き続き課題です。活用タイミングの早期発見体制も構築する必要があります。 障がい者の高齢化に伴う障がい福祉と介護の連携については、相互理解を深めるため、地域ケア会議等への関係者の積極的な参加を促すとともに、精神系訪問看護師等の巻き込みを検討します。「親が要介護」となる家庭の支援も重要です。 送迎手段の確保や既存の人間関係への参加のハードル、本人のモチベーション維持については、ほめる・評価する機会の創出や移動支援の工夫が必要です。また、認知症と虐待の関連性を踏まえ、家族支援（特に第二のキーパーソンづくり）をさらに強化していきます。 これらの課題解決に向け、地道な活動の継続とともに、他の地域への横展開や新しい交流機会の創出を進め、地域全体での包括的支援体制の構築を目指します。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 8 年 7 月 21 日（火）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	地域ケア会議から分析した複合的な地域課題に対するポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを展開している。ふれあい喫茶と連携した相談会や、朝の見守り隊での声掛け運動といった、地域に根差した活動を地道に継続されており評価できる。 終活セミナーや成年後見人の講座では、地域住民の理解が深まるよう内容を工夫される等、地域のイベント等で、積極的に高齢者に関する制度の周知啓発を行い、法人の多職種とも連携し介護予防や健康に関する運動を実施するなど専門性を生かした活動をされている。 今後は、包括支援体制や実施取組が、より広い地域へも展開できるよう期待する。

課題対応取組報告書

名称	春日出地域総合相談窓口（春日出ランチ）
提出日	令和 8 年 6 月 19 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）
活動テーマ	地域から孤立しがちな高齢者の予防支援策として地域支援関係者と連携を図り、ネットワークを構築する（継続実施）
地域ケア会議から 見えてきた課題	・利用者(本人)の尊厳の保持、権利擁護に基づく利用者(本人)主体の対応が必要である。 ・成年後見制度は財産管理を中心とした支援だけでなく、意思決定支援や身上保護等の福祉的な視点に立った支援も含んでいることへの理解が必要である。 ・権利擁護支援の意義について、地域の住民や関係機関に対する幅広い周知・啓発が必要である。 以上3点 ⇒「権利擁護を支える法制度の理解」としている。
対象	西九条地区民生委員児童委員協議会
地域特性	春日出地域総合相談窓口(以下「ランチという」)の担当圏域は春日出中学校区である。 担当圏域内の高齢化率は、梅香地区が29.1%、西九条地区が30.1%、春日出地区(春日出中、春日出南)が24.8%となっており、担当圏域内平均は28.0%である。 (此花区全域は28.0% 令和2年度 国勢調査より) 公民館、集会所、憩いの家などの利用状況は活発になってきており、西九条駅付近にはクレオ大阪西や此花会館梅香殿、此花スポーツセンターなど、社会福祉施設や文化施設等多くの地域住民が利用している。 空き家を利用した民泊業者が増加しており、生活環境の不安等の問題が表面化している。
活動目標	権利擁護支援を主として地域支援関係者と連携を図り、ネットワークを構築する
活動内容 (具体的取組)	◇権利擁護支援講座「民生委員としてできる“法的つなぎ支援”の実践」◇ ～現場で活かす5つの視点～ ・判断力低下(成年後見制度) ・相続の不安(遺言書、家族信託) ・死後の心配(死後事務委任契約) ・金銭管理(日常生活自立支援事業、成年後見制度、財産管理契約) ・詐欺・悪質商法(代理契約・信託・見守り) の5項目について行政書士が講義する。 本人自身の考えや思い、気持ちをどうするか。本人の意思を尊重した支援を行うことが大切であり、地域において権利擁護を支える法制度の理解として講座を開催した。(9月24日事前説明、11月22日開催) 参加者：西九条地区民生委員児童委員9名 協 力：此花区南西部地域包括支援センター(以下「包括という」)
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	課題対応取組実施4回目であり、権利擁護支援を主として地域支援関係者と連携を図りネットワークを構築するための講座を1回目から継続的に実施している。 権利擁護支援の重要な考えとして意思決定支援では支援する側の視点ではなく本人の視点に立つことである。要援護者のそれぞれの環境や状況に応じて必要な配慮や支援を法律行為に基づいた講座として開催し受講してもらう。 振り返りのアンケートには参加者9人全員から理解が深まった。今後の民生委員児童委員活動に活かそうであるという前向きな意見を得ることができた。具体的には「民生委員としての動きを見直せた」「知らない言葉や事柄が多いので勉強したい」等の感想、気づきがあり、講座への関心の高さを知ることができた。4回目ということで地域支援関係者とのネットワーク構築は進んでいると考えている。

今後の課題	高齢化の進展、単独世帯高齢者の増加等により成年後見制度に対するニーズの増加・多様化が見込まれ、権利擁護支援のための重要な手段の一つである成年後見制度を更に利用しやすくする必要がある。そのための見直しが検討されており、本人の意思を尊重する、意見を重視することへの専門職的対応、地域支援者の対応に異なる部分はなく、意思決定支援に焦点を当てた実践を常に行っていききたい。 本人が地域から孤立、置き去りにならないように支援することは今後の課題であり、今日的課題でもある。今後も計画的に継続性をもって取り組んでいく必要がある。地域の中心的存在である包括からのスーパービジョンを受けブランチとしての役割や特性を活かし、次年度の取組につなげていきたい。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 8 年 7 月 9 日（木）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・地域のニーズを把握し、具体的な取組が実施できている。 ・権利擁護支援講座は評価できる。 ・他の地域支援関係者への拡大は必要。 →他の地域支援関係者への拡大はネットワーク構築にも繋がるので、今後活かしていきたい。 ・地域支援関係者と連携した取組であり、関係者の意向や要望を確認しながら段階的に実施、課題解決への取組を経年的・計画的に進めている。

課題対応取組報告書

名称	花乃井総合相談窓口（ランチ）				
提出日	令和	8	年	6	月 18 日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他（ ）	☒ 社会資源の創設（居場所づくり等） ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	高齢者の参加と孤立予防、早期に相談につながるための取組	
地域ケア会議から 見えてきた課題	【孤立する高齢者の課題】 ・ひとり暮らし高齢者、後期高齢者、認知症が重なると生活に支障をきたしてくる。 ・オートロックマンションが多く、地域とのつながりが希薄であったり、孤立している。	
対象	花乃井地域在住の高齢者	
地域特性	大阪市内では高齢化率が最も低い区であるが、近年、西区に転入する高齢者が増加傾向にある。 マンションは匿名性が高く、住民同士のつながりが形成されにくいいため、高齢者が孤立しやすい状況にある。加えて、 区外から転入した高齢者や地域に馴染みのない高齢者は、閉じこもりや認知症が進行しやすい状況にある。	
活動目標	・高齢者が楽しみをもち、継続して参加できる機会をつくる。 ・高齢者同士の交流を通じて、孤立予防、生きがいづくりの機会をつくる。 ・高齢者とランチ職員が交流する機会をつくり、総合相談窓口の周知や、課題の早期発見につなげる。	
活動内容 （具体的取組）	・毎週火曜日10時～11時に開催。 ・いきいき百歳体操、かみかみ百歳体操、その他、簡単な脳トレやオリジナル体操を実施。 ・保健福祉センターのリハビリテーション専門職派遣（年1回）。 ・ランチ伝言板を配布し、総合相談窓口の周知。	
成果 （根拠となる資料等が あれば添付すること）	・毎回20名程度が参加、年間延べ862名が参加。 ・参加意欲の維持・向上のため、百歳体操の後にオリジナル体操の実施と、保健福祉センターのリハビリテーション専門 職派遣による測定会を実施（5/20）。 ・参加者同士で欠席を取りまとめたり、欠席している参加者に連絡をしたりと互いに気にかける関係、ゆるやかな見守り の場となっている。 ・活動の前後に簡易な相談があり、早期介入のきっかけとなっている。	
今後の課題	・高齢者が主体的に関わることができる内容を検討する。 ・引き続き参加意欲を維持するしくみを検討し、継続した参加を促す。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和8年7月9日（木）	
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地 域包括支援センター運営協議会か らの意見等を記載。	百歳体操等を通じて高齢者の介護予防や社会参加、地域住民同士のつながりづくりを継続的に実施するとともに、 身近な相談窓口として地域住民の不安や困りごとの早期把握・支援につなげている点が評価できる。また、地域活動 者や関係機関と連携し、地域の実情に応じた取組を進めることができている。	

課題対応取組報告書

名称	港南地域総合相談窓口（港南ランチ）						
提出日	令和	8	年	6	月	23	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他（ ）	☒ 社会資源の創設（居場所づくり等） ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等)			
活動テーマ	知り合いが増えるまちづくり～健康づくりから、世代をこえてつながる居場所づくり～				
地域ケア会議から 見えてきた課題	・介護予防・予防医療の重要性についての啓発をもっと増やしたい。 ・医療関係者と地域との関わりをもっと増やしたい。医療・介護の連携強化が必要。 ・若い世代と高齢世代が気軽に交流できる居場所がほしい。 ・地域の担い手の高齢化。 ・町会未加入者や地域とつながりがいい方へのアプローチをしたい。				
対象	地域住民				
地域特性	【市岡地域（南市岡3丁目含む）】65歳以上高齢者数2,031人、高齢化率21%。港区の中では高齢化率は低い。地下鉄中央線・JR大阪環状線の弁天町駅が近く都心への通勤利便性が高い。スーパーも複数あり、近年はマンション開発も進み、若いファミリー層の流入が続いていると考えられる。 【田中地域】65歳以上高齢者数2246人、高齢化率25%。地下鉄朝潮橋駅が近く、公園やスポーツ施設が充実しており、住環境として魅力が高い。				
活動目標	①健康測定を入口に、介護予防・予防医療への意識向上を図る。 ②全世代が気軽に立ち寄れる居場所を創出し、住民同士の交流を促進する。 ③医療・介護関係者と地域住民がつながり、地域課題やニーズを直接把握できる場の創設。				
活動内容 (具体的な取組)	まちの保健室「みなとのまちほ」創設。市岡地域のスーパーのイトインコーナーにて、偶数月第3火曜日に定期開催。 ①身長・体重・体温・血圧・握力・酸素飽和度等の健康測定を中心に健康相談・介護相談も実施。 ②「みなとのまちほ手帳」を作成。測定した数値を記録し、過去の数値と比較できるようにしたほか、参加スタンプを押すことで、継続参加の動機付けを行った。 ③在宅医療・介護連携相談支援室、港区地域包括支援センター、港区南部地域包括支援センター、港区内の訪問看護事業所、医療機関、薬局等に働きかけを行い、各機関との協働体制を構築した。現在は港区3か所の総合相談窓口（ランチ）を含む多職種協働により実施している。				
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	前年度は計3回、延べ92名参加。 ①「みなとのまちほ手帳」の導入により、参加者が自身の健康数値を振り返る仕組みができ、リピーターの定着や継続的な健康意識の向上につながっている。 ②普段地域会館を利用する機会がなく、これまで地域支援者との関わりがなかった方とも接する機会が生まれ、地域行事や相談窓口の案内につなげることができた。 ③健康測定にとどまらず、看護師に日頃の健康状態を相談する場面も見られるようになり、気軽に専門職へ相談できる場として機能している。				
今後の課題	・健康測定・健康相談の場としては機能しているが、介護相談につながるケースが少ないため、介護相談への展開を図る必要がある。 ・参加者は高齢者が中心であるため、周知・広報をさらに強化し、多世代交流の場としての機能を充実させていく必要がある。 ・子育て相談等に対応できる体制が整っておらず、多世代のニーズへの対応が求められる。 ・参加事業所との連携強化と継続的な運営体制の確立。 ・取組の効果を評価するための指標や方法を整理する必要がある。				
※以下は、区運営協議会事務局にて記入					
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和8年7月30日（木）				
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性				
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・町会未加入者や地域とつながりがいい方へのアプローチという視点はよい。 ・まちの保健室の役割として、「みなとのまちほ」を創設し、スーパーで行ったことは、健康意識の向上やつながりがなかった地域住民と接する機会となり、評価できる。 ・「みなとまちほ手帳」を導入したことで、意識を変えることができ、継続的な取組として効果的だと思う。				

課題対応取組み報告書

名称	市岡東地域総合相談窓口					
提出日	R8	年	7	月	7	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☒ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	身近な場所に相談窓口を作る	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・既存の相談窓口にはつながっていない潜在的な困窮・孤立世帯がある ・全世代が日常的に相談できる場所が地域に不足している	
対象	圏域の地域住民	
地域特性	波除地域 (波除・市岡元町) 南市岡地域 (南市岡1・2丁目) 【波除地域】 全世代14,646人 (高齢者人口 3,009人) 高齢化率 20.5% 【南市岡地域】 全世代3,107人 (高齢者人口 742人) 高齢化率 23.9% (R8.3末 大阪市統計・大阪市住民基本台帳より)	
活動目標	・相談窓口の周知。 ・身近な場所に出向いて早期相談のきっかけを作る。	
活動内容 (具体的取組み)	・「ぶらぶらだより」を協働で作成。高齢者が利用する場所へ出向き、相談窓口の周知。 ・配食サービス利用者に生活情報や脳トレを配布 (毎月)、お弁当配布時に困りごとなど聞き取り。 ・「まちの保健室」を開設、全世代が自身の健康や親の介護等気軽に相談できる場所を作る。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・喫茶店を7か所、整骨院を6か所訪問、チラシの配架と気になる方の情報提供を依頼した。 ・地域会館で毎月実施。年間約1,200枚配布した。 ・他圏域の大型スーパーに「港区まちの保健室」を開設。3回開催 延べ92名参加。	
今後の課題	・圏域の他の地域会館や百歳体操などで生活情報や脳トレを配布し、相談窓口を広く周知する。 ・圏域の身近な場所に相談窓口を検討する。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和8年7月30日 (木)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☐ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・高齢者が利用する場所として、喫茶店・整骨院を選定しているところに、着眼点の良さを感じた。全世代対象とする場合には、大型スーパーは相応しいと思う。 ・喫茶店や整骨院を訪問して、チラシを配ったり、地域会館でも毎日配り、相談窓口の周知を行ったことは評価できる。 ・まちの保健室の役割として、「みなとのまちほ」を創設し、スーパーで行ったことは、健康意識の向上やつながりがなかった地域住民と接する機会となり、評価できる。	

課題対応取組み報告書

名称	築港地域総合相談窓口（ランチ）			
提出日	令和 8 年	6 月	30 日	

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）	
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等	
	☐ その他（ ）		
活動テーマ	『会話から始まる地域福祉』～つながり・見守り・支え合いのまちづくり～		
地域ケア会議から 見えてきた課題	①身寄りのないひとり暮らし高齢者の増加 ②地域とのつながりを求めない方が孤立しがち ③認知症への理解が地域に十分浸透していない		
対象	1.地域の高齢者 2.地域の支援関係者と支援機関		
地域特性	高層を含め市営住宅が多く、高齢化率が30%前後と港区の中でも高い水準である。 ネットワーク委員会、民生委員協議会の活動が活発で地域見守りコーディネーターとの繋がりも強い。 65歳以上人口に対するひとり暮らし高齢者世帯の割合（築港45%・港晴45.4%）が高い。		
活動目標	①「身寄りのない高齢者が地域の中で孤立することなく、安心して暮らし続けられる環境をつくる」 ②「地域との緩やかなつながりを持つきっかけを増やし、孤立を予防する」 ③「認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを推進する」		
活動内容 （具体的取組み）	○地域活動参加・協働 ・見守りコーディネーター連絡会、築港地域・港晴地域ネットワーク委員会に出席し、情報共有を行った。 ・各地域で開催される喫茶、食堂、百歳体操は参加するだけでなく、地域役員の皆様と協働で運営に携わる機会を頂き、参加者、関係者と「あいさつ」「会話」を行うことで、総合相談窓口の周知活動を行った。 ・喫茶開催時は、港区南部地域包括支援センター、認知症初期集中支援チーム合同での出張相談会の開催を行った。 ・大学ボランティアサークルの学生に地域活動を紹介し、世代間交流を行った。 ○港区3か所の総合相談窓口（ランチ）の協働活動 ・港区3か所の総合相談窓口（ランチ）の情報交換会を計10回開催し、情報共有を行った。 ・港区まちの保健室立ち上げを行い、計3回開催。 ・防災学習プログラムの開催。（各担当圏域で1回、計3回開催） ○認知症についての啓発活動 ・認知症キャラバンメイト連絡会の一員として活動を行った。 ・福祉教育「認知症キツサポーター養成講座」講師の担当を行った。 ・認知症講演会、見守り協力事業者連絡会の開催に携わる機会を頂き、多くの方に認知症に対する啓発活動を行った。 ・大阪市港区相談機関一覧三つ折りパンフレットを制作し、港区相談機関協働イベント開催時は三つ折りパンフレットの配布を行い、相談窓口の周知活動を行った。		
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	① 見守り活動を通じてひとり暮らし高齢者とのつながりが生まれ、地域で気にかけて合う関係づくりや孤立予防につながった。 ② 会話をきっかけとした声かけや居場所づくりにより、地域との緩やかなつながりが生まれ、社会参加や交流の機会の拡大につながった。 ③ 認知症に関する啓発や交流の機会を通じて地域住民の理解が深まり、認知症の方を見守り支える意識の向上につながった。 ・令和7年度延べ相談件数1428件（前年比418%）相談実人数117名（前年比229%） ・認知症に関する相談件数734件（前年比991%）		

今後の課題	実際、人との関わりを避ける方、閉じこもり傾向の方との関係作りは難しい。 地域相談員の「会話」は単なる雑談ではなく、見守り・課題発見・つながりづくり・支援への橋渡しという重要な役割を担っていることを意識して、今後も活動に取り組む。 「支援する」よりも「つながり続ける」という視点を持って声かけ方法に工夫を行うことや本人の興味・関心に応じた参加機会を提供することで地域とのつながりづくりや孤立予防につなげる。無理なく、継続的に活動ができるようすることが今後の課題です。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和8年7月30日（木）
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☐ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☐ 専門性 ☐ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・大学生のボランティアサークルとのかかわりで世代間交流につなげているところが評価できる。 ・地域の行事に出席し、最近元気がない方、会話をしてもつじつまがあわない方、服装が汚れている方など認知症が疑われる方の情報提供を受けて、見守り活動や支援に結びつけることができている。 ・支援拒否など支援が難しい人に対して、つながり続けることを大切した活動の姿勢は評価できる。

課題対応取組報告書

名称	浪速地域総合相談窓口				
提出日	令和	8	年	6	月 25 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域住民と一緒に、繋がりというセイフティーネットを作り、相談者に出会う。	
地域ケア会議から 見えてきた課題	家賃滞納、ライフライン停止など、困りごとが大きくなった時点で、支援が必要な対象者が発見される。	
対象	地域で暮らし、活動する人々	
地域特性	浪速地域：市営住宅の集合地域で、ひとり暮らし高齢者もしくは高齢者のみで構成される世帯が多く、賃貸マンションや新築の戸建てには子育て中の若い世帯や単身者が生活している。転居者のみならず、居住期間が長い住民の中にも生活課題を抱えているものの、身近に相談者がいないケースも散見される。 大国地域：ワンルームマンションでの生活や転入により、地域との接点が少ない環境で生活している高齢者も多い。 地域主体の活動の場に参加している住民は限定されている。 両地域共に、介護保険の申請を機に、地域活動への参加が途絶える傾向がある。	
活動目標	一つひとつの相談に丁寧に向き合うことで、地域から信頼され、些細なことも相談してもらえる関係性を構築する。	
活動内容 (具体的取組)	1) 地域活動へのアウトリーチ ・大国地域の活動の中心である大国集会所から距離のある戎本町コミュニティプラザでの喫茶へ出向いたことで、新しい顔の見える関係作りに繋がり、地域の現状（民泊等も含めた流動的な人の流れによるゴミ問題等地域住民の生活への影響、ワンルームマンションの増加に伴う住民層の変化や自治会加入者の減少、地域を支える役員等の担い手不足）について、生の声を聞くことができた。（令和7年4月に見学、7月より定期での参加、第3日曜日の午前中の開催） 2) ブランチ活動の見える化 ・民生児童委員協議会、いきいき百歳体操、ふれあい喫茶、地域で開催される行事へ参加する中で、地域住民や地域の役員等に、小さなことでも尋ねてみようと思ってもらえるよう、こまめにブランチの活動について伝えていった。 3) 地域住民との協働 ・認知症に伴う生活課題の解決に向けた介護保険の申請、サービスの利用、地域活動への継続した参加に向けた声掛け等、地域住民、役員や関係機関等と相談しながら対応した。 ・上記対応において、介護保険の申請＝地域活動への参加が途絶えるという構造へのリフレーミングを図るため、相談者のストレングスや地域住民の力が対象者をエンパワメントしていることについて伝え続けた。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	より身近な相談機関としてのブランチの存在意義は一つひとつの相談を大切にすることにある。地域で暮らし、活動する人々と共働することで、特に大国地域の相談対応件数が増加した。 認知症により介護保険サービスを利用することになっても、変わらず地域活動への参加が出来るよう、浪速地域・大国地域共に、参加に向けての声掛けや受け入れについて、地域役員やケアマネジャー等と相談、対象者の参加が復活することで、介護保険申請に対するマイナスのイメージを払拭することに繋がった。	
今後の課題	認知症を発症しても、周りの環境により、安心して暮らしていくことができる。そういった地域作りに対するブランチとしての取組みについて検討する必要がある。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日 専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	令和8年7月16日（木）
評価できる項目（特性） についてのコメント	☒ 地域性 ☐ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☐ 独自性
＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・市営住宅等における高齢世帯の多さという地域特性に応じ、地域活動への積極的な参加を通じて信頼関係を構築するアウトリーチの取り組みは「地域性」と対人援助の「専門性」を感じる。些細な体調変化や服薬の相談などから、医療・介護の連携へとつなぐ仕組みづくりにも期待する。 ・地域からの相談があれば迅速に対応し、必要に応じて地域活動者を含む関係機関と連携することで、ブランチとしての活動がより分かりやすく活動者に伝わっているのだと思った。 ・地域性を大切に活動の場へ出向き、住民の生の声を聴いたり、役員や関係機関と協働して丁寧に地域づくりに取り組む姿勢は評価できる。

課題対応取組み報告書

名称	浪速区日本橋総合相談窓口				
提出日	令和 8	年	6	月	26 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	住み慣れた地域で安心して住み続けられる人との関係づくりを図る	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・地域活動によって社会的関わりを持ち、医療や福祉等のサービスに繋がりがやすい高齢者がいる一方で、元々、他の地域からの転入等で地域との関わりを持ってない方や、地域活動の第一線から身を引かれ地域とのつながりが薄くなった方が、地域から孤立し、地域や医療と福祉サービスとの繋がりをどのようにつながりを持てば良いのか分からない、社会的孤立のおそれがある高齢者に対して、支援が必要。	
対象	・恵美、新世界・日東、日本橋地域	
地域特性	恵美・新世界は他地域からの転入者が生活しやすいワンルームマンションが多く、地域とのつながりが希薄な為、生活状況の情報収集が難しい。日本橋地域は、高齢世帯・ひとり暮らし世帯が多く、地域の繋がりが希薄化しつつある。日東地域は、市営住宅が多くあり、高齢世帯が多く地域の繋がりが途切れやすくなっている。	
活動目標	・地域とのつながりが薄い地域高齢者に対し、地域の相談窓口の周知や継続的な自宅訪問等により、顔の見える関係づくりを図る。本人の社会的孤立感を減らし、地域や医療と福祉サービスに繋がりが易くするために、支援者に対して相談しやすい環境作りを整える。	
活動内容 (具体的取組み)	1:地域福祉サポーターをはじめ、定期的に見守り訪問を行う。地域や多職種・多機関と連携して、地域ケア会議等で支援方針を調整、統一を図り、本人の意思決定支援を行う。 2:老人福祉センターの活動へ参加・協働し、相談窓口の周知を行う。 3:コンビニや商店、住宅管理人や医療機関等へ相談窓口の周知を行う。 4:新世界地域百歳体操後のふれあいの場づくりや茶話会において、権利擁護等の情報提供や認知症の予防啓発をすることで、元気なうちから将来のことを考えるきっかけづくりを行う。 5:社会資源を探し、様々な機関と結びつき、地域に情報共有と周知を図る。 6:金銭管理が困難な方には、区社会福祉協議会日常生活自立支援事業や成年後見制度の周知、利用促進、促す。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	1については、今年度は地域ケア会議開催に至るケースは無かったが、定期的に訪問し顔馴染みの関係性を構築を図ることで、支援の際に、本人が直接自分の意向や希望を伝えて易くなり、関係機関も連携しやすくなった。 2・3については、相談窓口の周知を図ったことで、地域関係者だけでなく直接本人からの電話相談や、本人が地域関係者から相談窓口の存在を知って相談の為に来所される機会が増えた。 4については、参加者同士での交流機会の場に繋がり、総合相談窓口職員に声掛けや挨拶、質問などを気軽にしておこなうようになった。 5については、支援の際に暮らしサポートセンターにわと連携や障がい者基幹相談支援センターと情報共有を行うことが出来た。地域と情報共有には至らなかった。 6については、金銭管理が困難な利用者に対して、区社会福祉協議会日常生活自立支援事業の紹介や成年後見制度利用を提案することが出来た。	
今後の課題	今後も活動を継続する。浪速区地域包括支援センター、浪速区認知症初期集中支援チーム、総合相談窓口の相談窓口の周知だけでなく地域への浸透を図る。地域で相談しやすい環境作りを目指す。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 8 年 7 月 1 6 日 (木)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント	・単身高齢者やワンルームマンションが多いという地域特性を踏まえ、定期的な訪問や声掛けによるアウトリーチを行っている「地域性」に根差した活動を評価する。支援の入り口として、必要に応じて地域の薬局等とも連携し、孤独・孤立を防ぐ関係づくりが継続されることを期待する。 ・地域の特性から基本的な「相談窓口の周知」を丁寧に行うことで、地域への浸透を進め相談しやすい環境づくりに貢献できている。 ・地域とのつながりが希薄な高齢者に対する取り組みにおいて多方面への相談窓口の周知など、課題への取り組みが適切に実施されていると感じた。	

課題対応取組報告書

名称	生野東総合相談窓口
提出日	令和 8 年 5 月 27 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）
活動テーマ	地域との関係づくりを通じた総合相談窓口（ランチ）の周知と相談支援体制の強化
地域ケア会議から 見えてきた課題	・ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯において、認知症や身体機能低下に加え、医療・介護・経済・家族関係者等の複合的な課題を抱えるケースが多くみられた。 ・認知症の進行や判断力低下に伴い、金銭管理や服薬管理、受診継続が困難となるケースがあり、権利擁護支援や多職種・多機関連携の必要性が高まっている。
対象	担当圏域の高齢者およびその家族、地域住民、関係機関
地域特性	高齢者人口が多く、昔から居住している住民も多い地域である。住民同士のつながりが深い、その一方で区画整理がなされ、住まいを変更せざるを得ない状況があり、活動・参加してきた地域が変わってつながりが希薄になるケースが見られ、今後も増えると思われる。
活動目標	・地域包括支援センター（以下「包括」という） ・総合相談窓口ランチ（以下「ランチ」という）の役割や活動の周知に努め、互いに情報提供を行う。 ・高齢・介護・医療分野等の多職種・多機関連携を図る。 ・地域住民に対し、認知症への理解を深める。 ・地域役員と情報提供・共有を行い、協力し合える関係性を構築する。
活動内容 (具体的取組)	①生野・林寺・西生野地域での戸別訪問の実施 地域役員、包括、区社会福祉協議会とともに戸別訪問を実施。夏・冬かわらず年間を通じた熱中症の注意喚起とともに包括・ランチの周知および地域の実態調査を行った。 ②認知症カフェ「オレンジカフェつなごう」の隔月開催 当事者およびその家族、地域住民に対し、認知症の理解を深める目的とともにつながる場として開催。二部構成として、一部は講義や体操、ゲーム感覚で行える回想法など楽しみながら学べる内容を意識して企画・運営した。二部はカフェタイムとし、参加者同士や支援者を交えた交流の機会を設けた。 ③多職種・多機関との連携 ・認知症が疑われる人に対しては認知症初期集中支援チーム（以下「オレンジチーム」という）と協働し、包括とも連携・情報共有をはかりながら支援にあたった。 ・オレンジチーム主催の事例検討会に参加し、認知症当事者やその家族への支援方法、多職種連携の視点について学びを深めた。 ・市営住宅の集会所を活用した住民同士のつながり構築について、住民からの要望があり、住民や役員、包括、区社会福祉協議会、民間企業の協力で「体力測定」が実施された。 ④ランチの広報・周知活動 ・地域の会館での催し（喫茶、モーニング、デイサロン、百歳体操、介護予防教室、体力測定、スマホ教室等の活動）への参加を通じて関わった。 ・ランチ広報誌「つなごう」の年4回作成、配架・配布、認知症カフェ「オレンジカフェつなごう」のチラシ作成、配布等、また、催し前後にそれを活用して活動内容を案内した。 ・区役所前にて、区役所保健福祉センター、区内包括および区内ランチ、区内障がい者基幹相談支援センター共催で「まちかど相談」を開催し、周知活動を行った。

成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①生野・林寺・西生野地域での戸別訪問の実施 ・地域役員、包括、区社会福祉協議会と協働でサービス利用の有無にかかわらず、75歳以上の世帯や障がいをお持ちの世帯を中心に訪問。地域役員との関係性が構築されている地域と、地域役員の交代等で関係性の構築を改めて築いた地域と分かれた。また、隣近所とのつながりが深く、住民同士の互助関係も見られた。 ・訪問時に体調不良の方と遭遇し、お配りしている経口補水ゼリーにて水分提供などが行われたケースもあった。 ・戸別訪問をきっかけに、改めて相談があり、必要な支援につながったケースがあった。 ②認知症カフェ「オレンジカフェつなごう」の開催 一部の講座では認知症予防や認知症に対する理解や興味を促すことができた。二部ではコーヒーやお茶を飲みながら一息ついていただくとともに、気軽に話し合う場となり、参加者からご友人をお誘いいただき、新規の方が増えている。 ③多職種・多機関との連携 ・地域ケア会議や事例検討会等を通じ、多職種・多機関で支援方針を共有することで、継続的な見守りや役割分担を行うことができた。 ・地域活動に参加することで、地域住民や関係機関との情報共有や相談につながる機会が増えた。 ・市営住宅の集会所を活用して、新たな企画がなされ、集会所の存在や利用についての周知が行われている。 ④ランチの広報・周知活動 ・地域活動等に継続的に参加することで、地域住民や関係機関との連携強化につながり、相談窓口として認識される機会が増えた。 ・地域住民や地域役員からの相談や情報提供につながる場面が増え、気になる高齢者の早期把握につながった。 ・区役所前での「まちかど相談」を開催。区役所へ来所する方は、自ら問い合わせられるため、周知について対象とする方や開催場所の検討が必要という意見があった。
今後の課題	・地域活動への継続的な参加を通じ、相談窓口の周知や地域との関係構築を深めるとともに、連携体制の強化を図る。 ・認知症高齢者の増加が見込まれるため、地域活動や訪問時に認知症当事者の変化に気を配りながら状態を観察し、早期発見・早期支援につなげる。 ・区役所前で実施している「まちかど相談」について、区役所へ来所する機会の少ない方への周知や相談機会の確保が課題として挙げられ、今後はより地域に根ざした場所での開催を検討している。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 8年 7月 24日 (金)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	・地域住民のの間にランチが気軽に相談できる窓口として定着し、相談対応の役割を果たしている。 ・地域住民と関係機関でともに地域の集会所の活用について検討されており、今後身近なつながりや居場所として機能することを期待する。

課題対応取組報告書

名称	田島総合相談窓口				
提出日	令和	8	年	6	月 22 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等	☒ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	認知症カフェ開催を通じた地域の身近な集いの場づくり	
地域ケア会議から 見えてきた課題	複雑化した問題を抱えるケースでは、本人が家族や地域との繋がりがなく、孤立していることが多い。地域住民同士の関係が希薄化してきており、近隣住民同士で挨拶以上には干渉しづらいという声や、地域関係者からは近隣住民が入院・施設入所等で不在になっても分からずに困るという声も聞かれる。地域活動や見守りの担い手の高齢化が顕著で、担い手自身がしんどくなってきている方も多い。	
対象	当総合相談窓口(ランチ)(以下「ランチ」という)圏域に居住の高齢者とその家族、地域関係者等	
地域特性	・当ランチ圏域における高齢者人口は、3,785人、高齢化率は約32%。 ・圏域内には鉄道の駅がないが、中心にバス通りが南北に通っている。昔ながらの長屋も多く銭湯利用者が多い。自転車移動の方が多数だが、自転車をやめると長年通っていた趣味や社交の場に行けなくなる方も多い。 ・認知症への関心は高いが、“誰もがなり得る身近なもの”というよりは、“なりたくない”、“自分は違う”といった意識の方が多い。	
活動目標	・前年再開した認知症カフェを定期開催し、より身近な集いの場づくりを行う。 ・周知活動や情報提供を行い、認知症になっても安心して相談できる・暮らせる地域を目指す。	
活動内容 (具体的取組)	・令和7年5月より 奇数月の第2日曜日に固定化し、年6回の開催に変更。 ・ランチ職員のみでは当日運営が難しいため、認知症カフェ連絡会にてボランティアを募る。 ・各回開催前には、地域行事での広報や、地域関係者への周知を行った他、ランチが支援する方へ声掛けを行い、関心のある方に場を知っていただけるよう努めた、地域へ許可を取り回覧板での啓発2回実施。 ・希望者には認知症に関する情報を手に取っていただけるよう、リーフレット等の配架を行った。 ・おひとりでの参加者や茶話が苦手な方でも安心して過ごしていただけるよう、脳トレや体操等の内容を用意した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・令和7年度 認知症カフェを6回の開催することが出来た（前年度3回） （5/18 14名、7/13 16名、9/14 22名、11/9 17名、1/11 17名、3/8 23名） ・固定化したことにより日曜日であるが地域包括支援センターが参加でき啓発の場につながった。 ・防災の話、認知症の話、相談窓口（認知症）の話を実施できた。 ・グループホームの入居者も地域の方と一緒に参加することができた。 ・男性も定期的に参加された。（ご夫婦での参加あり、回覧版からの参加） ・傾聴ボランティア研修修了者の方が1～3名、毎回ボランティアに来てくださり運営が安定した。 ・地域の団体がカフェ開催日に公園のそうじの日を合わせてくれて、そうじ終了後参加されている。	
今後の課題	・田島地域の南側の住民や、生野南地域の住民からは、「参加したいが遠すぎる」というお声がある。 ・日曜日開催のため関係機関から専門職に参加してもらうことが難しい。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 8年 7月 24日（金）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・地域住民が気軽に相談できる体制が整っており、相談窓口としての役割を十分に果たしている。 ・認知症カフェの運営手法を見直し、関係機関と協力しながら、活動を継続できる体制を整えている。	

課題対応取組報告書

名称	新生野総合相談窓口				
提出日	令和	8	年	6	月 22 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域住民が早期相談できる顔の見える関係づくり	
地域ケア会議から 見えてきた課題	認知症に関するケースが多く、支援に入った時には生活に支障が出ていることがあった。 そのため、早期発見が重要である。 また、地域住民がランチに相談しやすいよう、積極的な関わりやランチの役割を行う必要がある。	
対象	巽東地域在住の65歳以上の方及びそのご家族様 各町会長・民生委員・女性部長等の地域関係者	
地域特性	文化住宅や長屋がなくなり建売やマンションなどが増え、町並みに変化してきている。若い世代の流入による、児童が増加傾向にある。 マンションなどの居住者は町会に加入しない事が多く地域の見守りや情報提供が難しくなっている。	
活動目標	・地域行事に参加されていない方に対する地域行事の周知活動 ・お困りごとがあった際、気軽に相談できる顔の見える関係づくり ・地域行事に参加されている方に対してのランチの周知活動及び認知症予防に関する情報提供	
活動内容 (具体的取組)	・巽東地域の各町会や巽東会館に啓発ポスター掲載・ランチ啓発ポスターのポスティング。 ・地域行事への参加。(にこにこ教室・はーとちゃん教室・ノルディックウォーキングの会・巽東敬老の集い) ⇒ランチの啓発、「介護サービスを利用するにはどこに相談すれば良いのか？」をテーマとしたミニ講座、認知症についての説明や脳トレ体操、詐欺対策などの情報提供実施。 ・巽東連合・巽地域包括支援センターとの連携強化。 また、行事等で会えない方については、自宅訪問することにより、顔の見える機会を設けている。 ・巽東地域福祉コーディネーターと協働し、いくみんお守りキーホルダーの周知・登録。 ・地域行事参加者宅への複数回の戸別訪問。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・以前介護保険申請を行った地域住民より、他の地域に住む方の介護の相談あり。 ⇒他地域であったため、対象の地域包括支援センターに報告。 ・いくみんお守りキーホルダー新規作成者数の増加。(10名) ・家族介護教室：9/12実施 巽東高齢者 15名参加 1/ 7実施 巽東高齢者 18名参加	
今後の課題	・認知症への理解を深め早期発見、早期対応や地域で見守れるまちづくり。 ・若年世帯(別居世帯)への認知症早期発見、相談窓口の情報提供。 ・活動が再開された巽東地域の地域行事の周知や参加の声かけ。 ・町会未加入のマンションなどへの認知症予防及び総合相談窓口啓発。 ⇒ランチ啓発ポスターや詐欺防止のチラシ等をポスティングし、相談窓口情報を発信。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 8年 7月 24日(金)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目(特性)についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・顔の見える関係の構築を意識して地域の会館に出向き、総合相談窓口の役割が伝わるよう、継続して周知に取り組んでいる。 ・当事者に困り感がなくサービスのニーズがないこともあるが、問題が大きくなる前に日ごろから関係をもてるような継続した支援を今後も期待する。	

課題対応取組報告書

名称	新巽総合相談窓口				
提出日	令和	8	年	6	月 10 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	高齢者の孤立を予防する	
地域ケア会議から 見えてきた課題	認知症や精神疾患が疑われるケースでは本人が地域とのつながりがなく、また断ってしまっている状態で孤立している。何らかの支障が出てきてから相談につながることが多い。	
対象	地域住民 地域役員 地域関係者	
地域特性	平野区と隣接する生野区最南端の地域。旧村時代の面影が残る古い家並みが残る一方、内環状線や地下鉄南巽駅周辺ではマンション・商店・飲食店などが増えている。また老朽化した借家が多く、退去された空き家も目立つ。耐震性不足を理由に立退きを求められた住宅もある。	
活動目標	総合相談窓口の周知活動 地域住民との顔の見える関係の構築 支援が必要な高齢者の早期発見	
活動内容 (具体的取組)	・地域活動（百歳体操・高齢者食事サービス・ふれあい喫茶・いきいき教室等）に積極的に参加をして実態把握を行う。 ・地域行事（朝市・サロン等）に企画から参加して地域役員、関係者と顔の見える関係構築し、コミュニケーションを密にして地域の実情を探る。 ・事務所横の地域交流スペース「いらカフェ」を解放し、どなたでも利用していただきコミュニティの形成の一端を担う。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	地域活動・行事に参加する中で実態把握ができ、顔の見える関係が築けて相談につながっている。民生委員や地域役員からも情報提供があり、訪問を重ねることで必要な支援につなぐことができた。	
今後の課題	地域の支え合い機能の低下 地域とつながりの薄い高齢者の発見・アプローチ方法 地域関係者との連携の強化	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 8年 7月 24日（金）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・サロンや事務所の地域交流スペース等を通じて地域住民との関係が築かれている。総合相談窓口が周知され、相談に立ち寄る地域住民も多く、総合相談窓口としての役割を十分に果たされている。	

課題対応取組報告書

名称	昭和ランチ				
提出日	令和	8	年	6	月 1 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり ～効果的な周知と早期介入の仕組みづくり～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・地域との繋がりが希薄で、孤立状態にある高齢者やその家族が散見される。 ・高齢者本人のみならず、「8050問題」等、世帯全体が複合的な課題を抱えるケースが増加している。 ・認知症や権利擁護等に関する市民の知識・理解が不足しており、一層の啓発が必要である。	
対象	地域住民、地域の支援関係者、各支援機関	
地域特性	・南北に広く、エリアごとに多様な特性を持つ。北部は新築マンションや商業・教育施設が多く多世代の交流が活発な一方、中部は長池公園があり閑静な住宅街、南部は単身者向けマンションや文化住宅が密集しており、地域間の経済的・環境的格差が見られる。 ・圏域内に3か所の地域会館があるものの、活動行事が減少しており、住民の集いの場が縮小傾向にある。	
活動目標	・積極的なアウトリーチによる早期発見・早期相談への接続を図り、地域住民との「顔の見える関係」を構築する。 ・多様な広報手段を活用して「昭和ランチ」の認知度を向上させるとともに、住民にとって有益な情報を発信する。 ・認知症や権利擁護に関する正しい理解を促進し、多職種協働のもと「誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり」を推進する。	
活動内容 (具体的取組)	【地域の集いの場へのアウトリーチ】 百歳体操、ふれあい喫茶、なにわ元氣塾等へ定期的に出向き、ランチの 周知や住民と直接関わる機会を増やし、顔の見える関係づくりを進めた。その場での出張相談や、住民からの「気になる高齢者」情報の収集を行い、地域福祉コーディネーター等と連携した早期対応を実施した。 【広報誌の発行による情報発信】 地域包括支援センター(以下「包括」という)や地域福祉コーディネーターと協働し、福祉広報誌「長池ふくしだより」を年3回発行。班回覧等を通じて幅広い世代へ相談窓口の周知を図った。 【多職種連携による啓発講座の開催】 包括や地域活動協議会と連携し、「長池ふくし・健康講座」を年10回開催。介護予防、ACP、成年後見制度、認知症等の住民の関心の高いテーマを取り上げ、啓発活動を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・地域行事への積極的な参加によりランチの認知度が向上し、地域住民や町会役員（女性部長等）からの相談件数が増加、アウトリーチによる早期対応が実現した。 ・「長池ふくしだより」を班回覧やイベント等で広く配布した結果、世代を問わず相談窓口の周知が進んだ。 実際に広報誌を契機とした相談も寄せられており、広報媒体としての有効性が確認された。 ・全10回の「長池ふくし・健康講座」を通じ、権利擁護や認知症に関する市民の理解が深まった。 また、普段地域との関わりが希薄な高齢者やそのご家族が参加される機会となり、新たなつながりが生まれ相談支援につながった。	
今後の課題	【潜在的な孤立ケースへのアプローチ】 周知活動の成果は出つつあるが、地域とのつながりを持たない高齢者「8050問題」を抱える世帯は依然として潜在している。事態が深刻化する前に早期介入できるよう、包括や地域福祉コーディネーター等との連携をさらに強化し、多角的なアウトリーチ手法を模索する。 【広報活動のブラッシュアップ】 「長池ふくしだより」の内容が形骸化・マンネリ化しないよう、住民の関心を惹きつけるタイムリーな企画を取り入れ、より効果的な発信を継続する。 【継続的な啓発と参加促進】 権利擁護や認知症に対する市民の理解はまだ道半ばである。「長池ふくし・健康講座」の取組をさらに充実させ、多様な層が興味を持ち参加しやすい企画立案や広報戦略を推進していく。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和8年7月10日（金）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	昭和ランチとして、長く地域と密接な関係を築き、地域の課題に対しても積極的に取り組む姿勢、地域福祉コーディネーターや地域からの信頼の厚さはまさに「地域性・継続性・浸透・拡張性」に該当する。さらに、保健師や地域包括支援センター、地域活動協議会と連携し、独自の情報誌を定期的に発行したり、福祉健康講座を年10回企画開催するなど、発想豊かに活動していることは「専門性・独自性」に該当する。	

課題対応取組報告書

名称	高松・文の里地域総合相談窓口				
提出日	令和	8	年	6	月 12 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	気づき合い、支え合い、つながる地域へ	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・困りごとに気づかれず相談が遅れ、問題が深刻化しやすい。 ・相談先がわからない住民が多く、窓口の認知が不足している。 ・地域活動の場が遠く、住民が参加しづらいためつながりが生まれにくい。	
対象	地域住民、地域関係者など	
地域特性	高松地域：地域を大きな道路が分断していて南北で地域活動への参加率に違いがある。 文の里地域：昔ながらの一軒家が多い。会館が地域の真ん中にあり住民が活動に参加しやすい。 常盤地域：人口が多く高齢化率は低いが高齢者人口は多い。地域の会館が3か所ある。	
活動目標	地域活動への継続的な参加と情報交換を通じて、住民と関係者とのネットワークを広げ困りごとの早期発見と相談に繋がる環境を作る。	
活動内容 (具体的取組)	・地域包括支援センター（以下「包括」という）と共同し、たかまつ健康の集いを隔月開催で立ち上げた。 ・地域イベントや小学校での福祉教育に積極的に参加し、幅広い年代と交流を図った。 ・ランチ圏域における小地域ケア会議では包括と共催し地域関係者や関係機関と地域のことを考える場として情報交換を行なった。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・定期的に地域活動に参加したことでランチの周知ができており、住民や地域関係者からの相談に繋がってきている。 ・たかまつ健康の集いでは既存の活動に参加されなかった方の参加につながっている。またテーマによっては圏域を越えて参加される方もおり健康への意識の高さがうかがえた。 ・文の里健康の集いでは成年後見制度についての勉強会を行い、将来に備えての学びのきっかけとなった。 ・小地域ケア会議では地域関係者の声を聴くことができ、事例紹介により相談のハードルが下がり、早期相談・早期対応につながる環境ができており。	
今後の課題	包括に初回相談が集中しており、ランチの役割が十分に認識されていない。健康のつどい・地域活動への参加は進んでいるが、まだ参加層が限定的で支援が必要な住民に届きにくい。「8050問題」や支援拒否など複合多問題のケースが増加しており、他機関連携の仕組みをさらに強化する必要がある。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区ランチ 運営協議会開催日	令和8年7月10日（金）
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント	阿倍野区北部包括と協働して、定期的に地域へランチの広報活動を展開し、確実に住民や地域関係者からの相談に繋がっている。また、小地域ケア会議で事例紹介を行う事で「そんなことでも相談していいのか」と相談へのハードルを下げたことは「地域性・継続性・浸透性・拡張性」に該当する。新たにたかまつ健康の集いを立ち上げて、これまでとは異なる参加者を得られたことやテーマによっては圏域外の住民の参加があったこと、さらに将来に備えての学びのきっかけとして、文の里地域において成年後見制度について、普段では聞けない専門的な話を地域住民向けに分かりやすい学習会を行ったことは、「専門性・独自性」に該当する。
* 今後の取組継続に向けて、区ランチ運営協議会からの意見等を記載。	

課題対応取組報告書

名称	新北島ランチ				
提出日	令和	8	年	6	月 18 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☒ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	かなえる棒体操・ランチの周知	
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域との関わりが希薄になっており、地域からの孤立を防ぐ取組が求められている。また、どこに相談して良いのか分からないことがないよう身近な相談窓口の周知活動も求められる。	
対象	地域住民とその家族	
地域特性	築50年を超える古い集合住宅が多く、ひとり暮らし高齢者の高齢者や夫婦共に高齢世帯の割合が多い。近隣や地域とのつながりが希薄になっていたり、閉じこもりがちの高齢者が増加し社会参加の機会も少なくなっている。	
活動目標	フレイルや閉じこもりの予防として、自主的に参加できる地域住民向けの集いの場を設け、顔なじみの関係づくりができる場を提供する。またランチの周知を図るために、地域住民向けの講座を開く。	
活動内容 (具体的取組)	・かなえる棒体操 <新北島地域> 毎月第一火曜日 14:00～15:00 市営新北島住宅第一集会所 <平林地域>] 毎月第四火曜日 14:00～15:30 UR南港前住宅集会所 棒体操終了後に出前相談実施 ・ランチによる地域住民向け“ブラッと講座”を2回(10月と3月)実施	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<かなえる棒体操> 新北島地域…毎月12名程度の地域住民参加。理学療法士の先生に棒を使っての体操を指導して頂いている。また、年2回(4月と10月)に体力測定を実施しており、記録用紙を持ち帰ってもらい健康のバロメーターとして活用して頂いている。 平林地域…毎月9名前後の参加。月によって参加人数にかなり変動見られる。参加者同士は顔見知りが多く、体力作りや生きがいづくりの場となっている。 <ブラッと講座> 1回目：お薬講座 地域からの参加者10名 改めて薬のことについて知ることができたという感想が多く見られた。 2回目：終活講座 地域からの参加者13名 元気なうちから備えておかないといけないと感じたという感想が多く見られた。	
今後の課題	かなえる棒体操は地域住民を訪問時に広報することにより参加者が減らないような工夫が必要である。ブラッと講座は広報期間や広報活動を広げて、沢山の地域住民に知ってもらい、ランチの周知につなげたい。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和8年7月23日(木)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント *今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・棒体操は珍しい。理学療法士が入っており、独自性があるのではないかと。 ・固定メンバーだけにならないように、新規の参加者を増やしてほしい。 ・どの地域もつながりが希薄になっている。元気なうち日頃からやっていくことが大事。	

課題対応取組報告書

名称	加賀屋ランチ				
提出日	令和	8	年	6	月 15 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）						
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等						
	☒	その他（ 防災への取組み		）						
活動テーマ	地域住民に向けた、防災・減災に対する小単位勉強会の実施									
地域ケア会議から 見えてきた課題	南海トラフ震災等への普段の防災意識の向上									
対象	高齢者を中心とした地域住民									
地域特性	高層マンションや、公営集合住宅、商店街の東西に住宅がある。北側の地域は旧造船の町として栄えた時代があり、単身者が仕事を求め集まっていた。単身者用アパートが残っており、高齢化、経済的困窮、社会的生活の継続が困難な方等が多く住む。町会未加入世帯や、脱会地域もあり、住民同士のつながりの濃淡に差がある。近年は街中に壁画やモニュメントが数多く点在し、「アートなまち」として大阪市が広報している。									
活動目標	住民自らが防災・減災の意識を持ち、日ごろから備える意識を持つ。									
活動内容 (具体的取組)	①地域の集いの場（わいわい・おしゃべり）で、防災グッズの整備のアナウンスや、災害準備品チラシを作製し配布した。 ②災害時に必要な備品で近くの商店で購入できる物品を紹介し、実際に活用方法を体験した。 ③準備、活用した物品をコンパクトな収納品（透明なタンブラー）に収納、作成し、自宅で見つけ、すぐに手に取れるところに置いておく意識を共有した。 ④ネットワーク委員と協働し、消防署の協力のもと、救命活動訓練を実施した。									
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・災害時持ち出しタンブラーを自分で作成し自宅に持ち帰られた。 ・実際に吸水シートや防寒アルミシートを使い体感することで実際の活用イメージを体感していただけた。									
今後の課題	・災害発生時の避難場所への行き方や安否確認の方法など、事前に確認・意識しておくことは多く残っている。 災害に備えた意識を持つことができる取組の継続が必要である。									
※以下は、区運営協議会事務局にて記入										
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和8年7月23日（木）									
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒	地域性	☒	継続性	☒	浸透性・拡張性	☒	専門性	☒	独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・防災訓練の用品や防災ボトルとして使える物を百円均一で見つける等、住民が取り入れやすい。 ・防災について、区全体で取組もうとしているが地域からやっていく、だんだん広めるのが当たり前かもしれない。浸透性も継続性もある。 ・防災の基本的な知識を楽しみながら得られる。									

課題対応取組報告書

名称	白鷺ランチ				
提出日	令和	8	年	6	月 15 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	地域内における支援機関との協働・早期相談、支援にあたる	
地域ケア会議から 見えてきた課題	東住吉区、東住吉区北地域包括支援センターで開催された地域情報共有会議、圏域他機関会議にて認知症（疑いも含む）、精神疾患を伴う生活課題を抱える世帯についての協議がなされた。また本人や家族の理解、認識不足により相談に至らない、支援機関の介入に対して拒否、消極的といった傾向も多くみられている。近年顕在化している中高年の引きこもりと高齢の親への共依存（8050問題）といった複合的課題も含めて早期発見、早期介入を実践できる体制づくりが必須となる。	
対象	・白鷺地域（今川・育和）の高齢者 ・地域支援機関（地域包括支援センター・見守り相談室・福祉サポーター・介護支援専門員など）	
地域特性	今川、育和ともにボランティア活動や見守り訪問といった地域内の福祉活動が活発である一方、近隣との繋がりが希薄な高齢者世帯も多く存在する。	
活動目標	早期の発見と相談支援の介入につながる環境と関係の構築を目指し、「日常生活の困りごと」を抱える世帯の抽出ができるように、地域内の支援機関と連携を図る。	
活動内容 (具体的取組)	・東住吉区、東住吉区北地域包括支援センターで開催される情報共有会議、個別地域ケア会議に参加し対応困難、複合的課題ケースに対する支援方針を検討のうえ対応にあたった。 ・支援介入に拒否、消極的といった気になる高齢者世帯の早期発見に努める視点で同法人の居宅介護支援部署とも情報交換、ケース検討会を実施した。 ・地域の身近な相談窓口として周知してもらえるように、同法人の施設内にて地域行事を開催した。「もしバナゲーム」を通しての人生会議の周知の他、司法書士を講師に招き遺言、相続をテーマにした基調講演を開催した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・総合相談実績：1811件。新規/継続：33件/836件と相談実績の増加。（前年度:新規/14件、継続776件） ※例年最も多かった相談実績の「経済・生活問題」を、「介護サービス・予防」関連が上回る結果となった。 ・認知症関連（疑いも含めて）の相談ケース：259件。うちオレンジチームと協働したケースは9件。（前年度0件） ・医療機関との連携ケース：入退院、施設入居調整関連が81件。 ・同法人の施設にて地域行事を開催したことで新たな集い場の拡充に繋がり、ランチの業務内容周知と理解について一定の役割を果たすことができた。また更なるニーズに特化した行事開催に向けての検証をすることで、次年度の催事企画に大きな強みとなった。	
今後の課題	多職種連携を基に地域支援機関との協働、連携にあたり、「自分らしさ」を主軸に住民自身の選択と決定に即した支援ができるよう、地域にいちばん近い相談窓口として機能していく為の関係づくりと基盤を構築していく必要があると思われる。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 8 年 7 月 13 日（月）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	地域に密着した活動を継続することで、相談窓口としての認知が進み、早期相談につながる事が期待される。認知症支援や服薬管理など、地域の薬局として何かできることがあれば、相談・活用してほしい。	

課題対応取組報告書

名称	矢田東総合相談窓口（ランチ）				
提出日	令和	8	年	6	月 19 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他（ ）	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等） ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	早期に相談してもらえるよう地域とのつながりを強め、身近な相談窓口として活動する	
地域ケア会議から 見えてきた課題	6件の地域ケア会議を開催し、すべてのケースで認知症状の進行が見られた。そこから被害妄想や現実を正しく認識できないことなどで支援に拒否的になり、事態が改善しないという状況に陥る。	
対象	地域関係者（地域福祉サポーター、町会関係者、民生委員、地域住民）	
地域特性	◆矢田東：矢田圏域のなかでも高い町会加入率を保っていたが、老朽化した住宅の建替えが進み、賃貸マンションや高齢者向け施設が増加していることで、加入率の減少が続いている。そうした中でも会館での集い場活動を活発に行っており、参加者は増加している。また友愛訪問を町会ごとに形を変えながらも工夫して継続している。 ◆矢田北：会館が地域のほぼ中央に位置していることで、どこに住んでいても比較的距離が近く、会館には歩行器を使っている人でも行きやすい環境にある。そのため高齢になっても集い場に通い続けている人は多く、参加できるよう地域役員のサポートもある。また平日は会館に役員が常駐しているので、何かあれば相談に行く人も多い。	
活動目標	地域の気づきをいち早く届けてもらうことができれば、生活状況が悪化する前に相談につなげていくことができる。その為に地域に身近な窓口として活動する。	
活動内容 (具体的取組)	◆矢田北地域ひとり暮らし高齢者高齢者等の戸別訪問 ひとり暮らし高齢者や認知症などで一定の見守りが必要な人や孤立していく恐れのある人に対して、地域つどい場への参加の促しなどを行う為、地域役員から情報を収集し地域福祉サポーターと一緒に訪問を行った。 ◆継続的な集い場参加、会館訪問 継続的に地域集い場に参加し、地域住民から相談してもらいやすい関係性を作っていく。また会館に集う地域役員の方々とも日頃より情報共有を行い、対応が必要なケースについては役割分担しつつ連携して対応した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	◆矢田北戸別訪問では訪問対象者を13名ピックアップしている。選ぶにあたってはこれまで総合相談で関わった人や地域の気づきを届けてもらった人などを対象とし、普段からの地域との話しあいを重ねながら選んでいき、3回に分けて地域福祉サポーターと一緒に訪問を行った。訪問することで、本人の様子や生活環境の把握がより深まる。2名が定期的な集い場への参加につながり、内1名は予定が覚えられないため、近隣の友達に誘いに行ってもらい参加できるようになった。 ◆相談延べ件数が2,600件を超え訪問対応したケースも1,500件を超えた。地域福祉サポーター、町会役員、民生委員と連携する機会も425件となり地域に密着した活動を行えた。	
今後の課題	早期相談をしてもらうケースは増えているが、近所づきあい等をして地域の輪の中で生活している人は相談をしてもらいやすい環境にあると言える一方、元々そうでない生活をしている人はまだまだ事が起らないと相談につながらないことが多い。そういった人でも地域で気づかれていないわけではないことあるので、気づきを届けてもらい早期相談につなげていけるように活動していく必要がある。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 8 年 7 月 13 日 (月)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☐ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	民生委員など地域関係者とランチが身近な相談窓口として連携していることで、相談から課題解決まで円滑に進んでおり、今後も地域に密着した活動を継続してほしい。

課題対応取組報告書

名称	矢田西総合相談窓口（ランチ）						
提出日	令和	8	年	6	月	10	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他（ ）	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等） ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	高齢者を主とした地域住民との「顔の見える関係」の構築	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・ADLが高い軽度者が多く、当事者に問題意識がないため、セルフネグレクト状態が長期化している。 ・家族や親族からの支援が困難な状況、苦しい経済的状況など複合的な課題を抱えているケースが多く、介護サービスだけでは対応が難しい。 ・判断能力の低下があるが、キーパーソン不在の方がいる。 上記の3点が複合したケースも少なからずあり、問題が複雑化する前に関わりを持てるようにする必要がある。	
対象	矢田西地域の高齢者を主とした地域住民	
地域特性	市営住宅や古くからの集合住宅など、高齢者が住んでいる住宅が多い一方、古くからの住宅を建て替えたアパートや新しく建った戸建て住宅もあり、古くからの住民と新しく地域に移ってきた若い住民との交流は少ない。住宅の多い地域ではあるが、地域内にスーパーやコンビニなどの店舗は少ないため、買い物には少し遠くまで行く必要がある。	
活動目標	高齢者を中心に、地域住民との顔の見える関係を構築する	
活動内容 (具体的取組)	・ランチ周知の目的を合わせ、介護や医療に関する情報提供をテーマに設定した「せいのよう支援教室」を年度内に4回開催、開催前月をめぐに連合町会の回覧板（193班）・掲示板（30か所）を使用し告知した。 ・9月より新たに「矢田西ランチ通信」の発行を3か月ごとのペースで開始し、こちらも回覧板・掲示板での掲出を実施している。 上記2点については地域行事の場においても直接配布や地域の会館への配架を依頼し、毎回350枚程度の配布を行っている。 ・6月には矢田地域包括支援センターと協働し、矢田西地区民生委員児童委員協議会で包括・ランチの事業説明を実施した。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	年度内に開催した「せいのよう支援教室」への参加は4回で延べ11名、ほかに当日欠席された方2名であり、これまでランチを知らなかったという方の参加もあった。 集いの場に参加されている方やその知り合いの方から直接ランチに連絡をいただき総合相談として対応したケースもあり、ランチの業務内容の理解も進んでいると考える。	
今後の課題	地域におけるランチの認知度はまだ低いとため、今後はこれまで接点のなかった地域住民や各種団体などに対してランチの存在と業務内容についての更なる周知に努め、早期に相談できる関係を築いていく必要がある。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 8 年 7 月 13 日（月）
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・地域包括支援センター等の認知度は向上しているものの、関心のない層には情報が届きにくいとため、周知方法の工夫が必要。必要な人に確実に情報が届く周知方法を検討してほしい。 ・本人が困りごとを自覚して初めて相談につながることも多いとため、継続的な取組が重要であり、引き続き活動を継続してほしい。

課題対応取組み報告書

名称	成南地域総合相談窓口（ランチ）
提出日	令和 8 年 6 月 9 日

カテゴリー （※主なものをひとつチェック）	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☒ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他（ ）	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等） ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	認知症高齢者の理解と対応	
地域ケア会議から 見えてきた課題	（見えてきた課題のまとめ） ①地域住民の認知症の理解がなく、孤立していく認知症高齢者が多い。地域住民が認知症高齢者を喫茶・食事会等に誘っても、その約束を忘れてしまう。地域住民が立腹し、認知症高齢者との関係性が崩れる状況が多い。 ②認知症高齢者の言動が理解できなく、虐待ケース及び予備軍になる家族が多い。 ③認知症の人の介護をしている家族言動に振り回され、疲労困憊になっている状況が多い。	
対象	地域の認知症高齢者の家族及び地域住民・民生委員	
地域特性	①子供の頃から、或いは結婚してから等、長く地域で暮らしている高齢者が多い。 ②お祭りなど地域活動がまだ現存している。 ③商店街で商売をしてきた高齢者が多い。商売の成功で一軒家在住高齢者が多いが、国民年金受給である。 ④地方からやってきた生活保護受給男性も一定数存在。	
活動目標	認知症の理解と対応の仕方を学ぶ	
活動内容 （具体的取組み）	第1回 千本地域開催【認知症サポーター養成講座】 日時 8月29日 金曜日 14:00～16:00 場所 千本北 福祉会館 内容 ①認知症の基礎知識 ②認知症の対応の仕方 ③軽度認知障がい 対象 ①民生委員10名 ②地域役員10名 ③認知症高齢者の対応をしている地域住民10名 体制 地域住民 千本民生委員会 千本連合振興町会 千本地域活動協議会 千本ネットワーク委員会 千本千寿会 西成区役所 玉出地域包括支援センター（認知症強化型地域包括支援センター） オレンジチーム 成南ランチ 目的 ①認知症を正しく理解し、地域で認知症高齢者を見守りできるように対応の仕方を学ぶ。 ②認知症の人やご家族の気持ちを理解し、地域でできる範囲で認知症高齢者の手助けを行う。	
成果 （根拠となる資料等があれば添付すること）	①地域住民の認知症についての理解が深まった。そして、認知症高齢者に関わって下さる住民が多くなった。 ②認知症高齢者の言動を理解し、怒りをぶつける人が少なくなった。 ③認知症の妻への虐待事例の養護者も参加され、「参加してよかった」という言葉を聞くことができた。 養護者が認知症について学び、認知症高齢者の言動が理解でき、寛容力が身についたと思われる。 「認知症サポーター養成講座」が養護者支援という観点で虐待の課題解決となる可能性を見い出せた。 ④認知症高齢者の言動に振り回されている家族にとって、「認知症サポーター養成講座」が課題解決（認知症高齢者の言動の理解と寛容力）となる可能性を見い出せた。	
今後の課題	来年度は地域で「ステップアップ講座」を開催し、地域住民として認知症高齢者にどんな支援ができるのか、意見交換していく方針だったが、昨年、百歳体操等の参加者が脳梗塞を発症し、複数入院した。脳梗塞の予防及び再発防止に早急に取り組まなければならない状況である。よって、「ステップアップ講座」は認知症強化型地域包括支援センター主体で地域開催を目指し、ランチは脳梗塞の予防・脳梗塞後の再発予防に取り組む方針である。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和8年7月15日(水)	
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載	認知症サポーター養成講座を開催し、地域住民へ認知症の正しい理解や接し方、見守りについて学ぶ機会を提供した。また認知症に関連する虐待ケースについても区と連携し支援を行っており、認知症高齢者との共生社会の確立に大きく貢献している。	

課題対応取組報告書

名称	南津守地域総合相談窓口				
提出日	令和	8	年	5	月 15 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	高齢化が進む地域への支援体制の構築	
地域ケア会議から 見えてきた課題	高齢者が多い市営住宅にて、地域の関係者の方からの相談は増加している。ただ、個人情報保護ということもあり、自治会の方でも情報が入りにくく、気づいた時には症状が進行した状態であり、その状態で相談機関に繋がる事が多い。早期発見・対応が出来るような仕組みづくりが必要。	
対象	地域住民	
地域特性	南津守地域は南北に長く、工場跡地にファミリー向けの建売住宅が増えた事で、年少人口の増加も見られる。ただ北部・中央部に市営住宅、南部にはワンルームマンションが多く、そこでの居住者は一人暮らしの高齢者や、高齢者世帯の転入が多く、地域との交流が希薄で孤立化が目立つ。	
活動目標	いつでも、誰でも何でも言える関係の構築	
活動内容 (具体的取組)	前年度、集会場を活用して行った出張相談会では、「近隣に相談している事が分かるのが嫌だ」という意見や、「他者の目が気になる」という意見があったので、講義や講座形式に変更し3回開催した。前年度と同様に、事前にポスターや回覧チラシを作成し、周知活動を行う。今回も地域包括支援センターやランチだけでなく、生活支援コーディネーターや見守り相談室、障がい者基幹相談支援センターも協力していただき、防災、睡眠、遺言に関する専門の講師の方に来ていただき、住民の方の学びの場となった。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	総合相談につながるケースはなかったが、これまで関りが薄かった住民の方とのつながりが出来た。参加者の方からは、また何か講座を開催して欲しいとの希望もあり、その際には他の方にも声をかけてくれるとの事だった。前年度の相談会よりは参加者が増えた。	
今後の課題	より多くの方が参加できるような物を検討し、開催出来ればと思います。その中で色々な情報を収集できるようにしていきたいです。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和8年7月15日(水)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	重症化・深刻化してからの相談事例が多い現状に対し、関係機関と密に連携した相談会を講座形式等、工夫して展開している。さらに、早期発見・対応を可能とする仕組みづくり構築に着手し、地域の相談窓口として機能強化に多大な貢献をしている。	

課題対応取組み報告書

名称	梅南・橘総合相談窓口				
提出日	令和 8	年	6	月	26 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☒ 社会資源の創設（居場所づくり等） ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	身近な集いの場の発展から、地域住民がつながるまちづくり	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・ひとり暮らしの高齢者が多い。特に男性で、地域とのつながりが希薄な人が多い。 ・地域全体としても高齢化が進み、住民同士のつながりも薄くなってきた。 ・地域とのつながりが希薄である事から日常生活に課題を抱えていても気づかれず、状態が悪化してから介入するケースが多い。 ・「8050問題」や老々介護など世帯で複合する課題を有するケースも有り、様々な方向からのアプローチが必要である。	
対象	・主に圏域内地域住民	
地域特性	・昔から住まう住民が多い一方、新しく移られてきた住民も多い。 ・地域関係者の高齢化が課題である上に、町会の加入率も低下しており次世代へのバトンタッチが難しくなっている。 ・高齢化率及びひとり暮らし高齢者の割合が高く、一度閉じこもってしまうとその後社会との接点を持つ事が難しくなる。	
活動目標	・地域のコミュニティーから疎遠となっている男性の居場所づくり。 ・地域住民が気軽に集える居場所の継続 発展を通じ、地域関係者との連携を強化して行く。 ・住民同士が見守り、支え合う地域づくりへの支援。	
活動内容 (具体的取組み)	○梅南地域での「おとこまえ」「いきいき」百歳体操 ・梅南地域での百歳体操は「おとこまえ」「いきいき」と2部制で、毎週水曜日午前に開催しています。 ・「おとこまえ百歳体操」は参加者の入れ替わりも有りながらも、開催5年を迎える事ができました。参加者が自分の友人を誘ったり、ケアマネジャーやケースワーカーからの紹介等で参加に繋がり、介護予防のきっかけとなっています。参加者も増え毎回15人前後の参加となっています。 ・「いきいき百歳体操」は地域住民が自由に参加できる集いの場であり、毎回30人近くが参加されています。 ・今年も両取組にて月1回「おとこまえ」「いきいき」ポッチャくらぶを開催。1月に開催された西成区ポッチャジャガビー杯には3チームを編成し、合同での練習会も6回行い優勝を目指しました。優勝には至りませんでしたが、「70歳代でも」「80歳過ぎてでも」「90歳が来ても」選手として大会に出場できた事を喜ばれていました。 ○松之宮地域での「スマイル」「百歳体操」 ・「スマイル」は自由な居場所として松之宮ホールにて、毎週水曜日午後開催されています。開催にあたりネットワーク委員と包括、ランチ、区社協体制整備が協働。ゆったりとした時間と合わせて、地域で活動されるボランティアのアトラクションや健康講座、ポッチャなど多彩な取組を行ってきた。 ・「松之宮地域百歳体操」は地域ネットワーク委員とランチ、包括、体制整備が協働し毎週金曜日午後開催。実演で体操を実施し、本来の運動に少しずつ運動メニューを加えた形になっています。百歳体操終了後に転倒予防に着目した、上半身と下半身の運動も各週ごとに行っています。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	○梅南地域での「おとこまえ」「いきいき」百歳体操 ・どちらの参加者からも「運動する習慣がついて、毎日を楽しみ過ごす事が出来る様になった。」「ポッチャも楽しみになっています。」等の声が寄せられています。また男性の参加者には、「話す相手が出来たので、水曜日が待ち遠しい。」と喜ばれている方もいます。また町会役員も何人か参加されており、体操の場がちょっとした意見交換の場ともなり、地域活動の活性化に繋がっているとの感想も寄せられています。 ・はぎのさと別館での取組が地域に浸透すると共に、ランチの周知も更に進んできました。結果として令和7年度においても、はぎのさと別館への来所での相談件数増に繋がりました。 ○松之宮地域での「スマイル」「百歳体操」 ・「スマイル」では参加者の近況報告などのおしゃべりタイムに加えて、多彩な取組を行う事により「ここに来たら楽しいです。」等の声を寄せられています。またデイサービス等に行く程ではないが、少し閉じこもりがちになっている人への参加呼びかけの場ともなっています。 ・「百歳体操」では筋力運動に加えて、転倒予防についてのプログラムも実施。参加者より「以前より買い物に行く事が楽に出来る様になった」「寝たきりにならない様に百歳体操は続けます」等の声がたくさん寄せられています。 ○「身近な集いの場の発展」に向けランチも協働して行く中で、総合相談窓口の役割が浸透。地域関係者及び、そこで住まう住民一人一人と顔の見える関係づくりが行えた。	

今後の課題	○地域では高齢化が顕著であり、地域活動の場でも担い手の高齢化に拍車がかかっている。令和7年度においてはポッチャを取り入れた世代間交流等を継続できた。地域の相談窓口として、地域行事その他取組に可能な限り参加し、ランチとしても課題解決に向けた協働を積極的に取り組んで行く。
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和8年7月15日(水)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、 区地域包括支援センター運営協 議会からの意見等を記載。	地域社会から孤立しがちな男性高齢者を対象に、身近な通いの場として介護予防の習慣化を定着させている。ここから住民相互の自発的なつながりへと発展させ、結果としてランチへの相談件数増加に繋がっている一連の循環は高く評価できる。

課題対応取組報告書

名称	天下茶屋地域総合相談窓口						
提出日	令和	8	年	6	月	5	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等	☒ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（	）
活動テーマ	高齢者を地域につなぐ通いの場づくり	
地域ケア会議から 見えてきた課題	【ひとり暮らしの高齢者世帯の社会からの孤立化で生じる課題】 ・疾病等の継続的放置で重症化後の発見、それに伴う金銭管理不能で生じた生活困窮 ・認知症の発見の遅れによる身体衛生管理(入浴・更衣、清掃、害虫駆除)の未実施 ・親族、知人による金銭搾取の発見の遅れ これらの課題は孤立化の早期発見で防ぐ可能性が高くなる事案であり、近隣住民、民生委員、大家などから日常生活の異変をいち早く得られる体制を強化する必要がある。	
対象	・地域の高齢者 ・地域の支援関係者	
地域特性	天下茶屋地域の65歳以上の人口割合、男性3377人、女性2671人、高齢化率40.01%、単独世帯68%、保護率20.96% でひとり暮らし高齢者が多い。 天下茶屋地域はひとり暮らし高齢者世帯が多い割に、地域住民がお互いの存在を気にする繋がりが残されている地域であったが、天下茶屋ランチ近隣での孤独死・危篤状態での発見が昨年認識されているだけでも4件あったなど、新築物件増加による転入住民増加（外国人も多い）や、民泊の増加により、近隣の繋がりが希薄になっている。	
活動目標	近隣の高齢者同士がお互いの繋がりを強化できる様、お互いに誘いあえる機会となる様な行事を催す等、高齢者の地域共生を育む取組を行う。また、引き続き、顔の見える総合相談窓口を目指し周知活動を行う。	
活動内容 (具体的な取組)	毎週火曜日・水曜日の百歳体操や金曜日の手作り倶楽部に定期的に参加して頂いている方以外にランチの催しに参加して頂ける場を設けた。 「保健師による健康講習①」 3回 ・百歳体操、コグニサイズ、数独、手作り倶楽部、ボッチャを行うことの理論付け ・脳の老化によって生じる様々な症状について 「行政書士による老後の財産管理①」 1回 ・権利擁護の周知（任意後見制度と家族信託、成年後見制度） 「自転車違反新制度2025」 1回 ・西成警察交通課の方より講習	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・計5回の単発講習では、訪問のみのランチ支援で、ランチや地域の行事参加をされない方の中で、ひとり暮らしで近隣住民との繋がりがあまり無い方に重点を置き参加を促した。結果8名の方が参加され、2名の方は定期行事の参加につながった。また、高齢の親がいるという方の参加があり、またこのような講習があれば参加したいとのことだったため、今後は子供世代への参加も促し、高齢者の地域共生に役立つ取組を行いたい。 ・健康講習で脳の老化の様々な現象について講習頂き、家族や近隣でそのような方を見かけた場合、ランチに相相談して頂きたいと周知し、結果1名ランチに同行で来所され、介護保険申請、介護サービスにつながった。また、認知症の症状について理解が深まり、特別扱いせず、健常者との共生が可能である認識を持って頂けた。今後も継続的に同様な講習を行ってきたい。 ・財産管理講習後、銀行と家族信託の話をしたら100万円の手数料が必要と言われたと報告を受けた。任意後見制度の利用について再度説明したが、公正役場や公正証書について詳しく知りたいとのことだった。天下茶屋地域は、自営業で資産をお持ちの方も多く、相続について気になっている方も少なからずいるため、司法書士や公証役場から情報を得て、講習会を開きたいと思う。 ・自転車違反新制度の講習では、具体的に違反と罰金が書かれた冊子を配って頂いたが、講習に参加された方が家族や近隣住民に配布されていた。生活に直結した内容であったためかと思われるが、高齢者に限らず、地域住民の生活に直結した情報も発信していきたい。	
今後の課題	・この一年で新たに関わった方のほとんどが、ランチの存在、その役割をご存知なかった。今後も個別訪問や地域行事でのチラシ配布で周知活動を続けていきたい。 ・天下茶屋地区にあった唯一のスーパーが閉鎖され、そこへ通うことが外出の機会であった高齢者が多くいるが、それに替わる通いの場が無い状況である。外出が減り、引きこもりがちになり、社会との繋がりが無くなるという事態を防がなければならない。天下茶屋地域では、「老人憩いの家」と「ランチの集会所」以外に集会所となる建物が無いが、昨年から継続案件であり、今年度も高齢者の通いの場の確保に努めていきたい。 ・昨年度、地域連合登録者の個別訪問を行ったことで、顔見知りの高齢者が増え、路上でご自身の近況や近所の噂話を聞く機会が増えた。地道ではあるが、このような繋がりを大切にしていきたいと思う。	

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和8年7月15日(水)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地 域包括支援センター運営協議会か らの意見等を記載。	保健師や行政書士等と連携して講習を開催し、普段は地域行事に参加しないひとり暮らし高齢者を重点的な 対象として実施している点が高く評価できる。今後も孤立リスクの高い世帯の早期支援や、高齢者の地域共生に 資する取り組みを期待したい。

課題対応取組報告書

名称	山王地域総合相談窓口（ランチ）				
提出日	令和	8	年	6	月 16 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 社会資源の創設（居場所づくり等） ☐ 認知症高齢者等の支援 ☒ 自立支援・介護予防・健康づくり等 ☐ その他（ ）
活動テーマ	楽しさを共有する活動、支える側としての活動を創出し、頼りにされる市民に
地域ケア会議から 見えてきた課題	1.高齢者の中には生来の障がいを抱えていると思われることがある。親族による経済的虐待に加え地域生活の破綻も見られたが、本人の理解ができず介入が困難となっていた。転居をきっかけに多様な機関の連携で医療、介護の支援が可能となった。 2.持ち家があるが生活困窮に陥った認知症高齢者の支援で成年後見制度の利用で資産の保護と介護の支援につなげた。
対象	地域関係者、地域住民
地域特性	高齢化で地域活動の世代間の継承がされず自治会の衰退が目立つ。さらに古くからの住宅が民泊にとってかわり住まいのための住宅が減少している。一方狭小な单身世帯向けのマンション、ハイツに暮らす身寄りのない高齢者が多く、要介護状態となったり、認知症の進行から地域生活の困難となり施設入所に至ることが多い。
活動目標	山王地域総合相談窓口（ランチ）が、気軽に相談できる身近な窓口として「地域に根ざした居場所の一端を担う拠点」となること。地域住民が活躍する機会を提供し社会資源の開発を行い、社会的孤立の解消を目指す。
活動内容 (具体的取組)	不適切な金銭管理やセルフネグレクトとも言える医療の拒否、ターミナル期支援が複数あり多職種連携の中での支援を行った。 ①「東部包括フリースクール」を活動の柱として位置づけてきた。とりわけ山王地域において出張フリースクールでは消費者被害、権利擁護の学習会を実施し35名の参加で好評を得た。 ②居場所づくりとしての「よりあい」には多様なニーズに対応するため、歌、手芸、芝居、絵手紙を開催した。 ③地域活動協議会と協働し山王ボッチャクラブと百歳体操の同日開催で定着している。 ④「みどりカフェ」は地域住民ボランティアによる地域清掃の後、将棋、麻雀を用意し喫茶も実施し、麻雀には女性の参加がある。 ⑤ふれあい喫茶には地域住民の他、障がい福祉サービス利用者の参加、救護施設利用者のボランティア参加を得ている。焼き菓子を提供し平均25名の参加があった。 ⑥山王・飛田の各地域関係者へ山王、飛田各ふれあい喫茶内で相談窓口専用コーナーを設置している。 ⑦「山王健康カラオケ倶楽部」を開催。社会福祉協議会、一般社団法人との協力の下地域外の参加も得ている。 ⑧「山王みどりキッチン」を開設。こども食堂の機能と高齢者の会食の場とし、多世代交流を図ってきた。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①支援をつないだ後のケアマネジャーへの後方支援で、ACPIについての相談に対応した。 ②地域住民との共同の天下茶屋地域道迷い声かけ訓練に参加した。 ③権利擁護啓発のための「けんりようご漫才」を山王、今宮、天下茶屋地域で実施し、ほっとネット西成に出演した。 ④手作り、うたごえ、お芝居など講師や演者も運営する側もボランティア参加による開催が出来てきた。地域の団体との共同企画も行い、思い出の曲を通して“オモト”を実施した。 ⑤ニシナリ多文化共生事業とのコラボ企画ではベトナムの親子と地域の子どもたちとの音楽イベントに協力した。 ⑥月2回の百歳体操と山王ボッチャクラブが定着し、平均18名の参加を得た。 ⑦みどりカフェ9回開催。のべ76名の参加を得た。地域清掃には認知症状のある人の参加もあり、コーヒー、焼き立てパンを提供。居場所の一つとして定着した。清掃の後の麻雀には女性の参加が定着した。 ⑧「ふれあい喫茶」は毎月1、2回開催。焼き菓子提供は好評を得、延べ389名の参加を得た。 ⑨山王・飛田ふれあい喫茶の相談窓口の設置から地域の取組の周知、顔の見える関係性を形成した。 ⑩山王健康カラオケ倶楽部を12回開催。延べ114名の参加を得た。 ⑪「山王みどりキッチン」を14回開催。延べ1001名の参加を得た。地域住民のボランティア参加は延べ86名となった。

今後の課題	医療拒否やセルフネグレクトなどはそれまでの支援や医療に不信や強い拒否感があり、希薄な人間関係の中、孤立感を深め介入困難となる。引き続き関係機関、地域の活動との連携に努め、様々な企画を様々な人たちとの関係づくりの糸口とし、地域を巻き込みながら孤立解消に向けた支援につなげたい。また活動機会の創出から介護予防につなげるよう、それぞれの企画に地域住民ボランティア参加を呼びかけて、支える側として活躍できる場を創造し「楽しい」と感じられる活動の場としていきたい。
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和8年7月15日(水)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	高齢者や障がい者、外国人親子を含む多世代のインクルーシブな交流を実現し、セルフネグレクトやターミナル期支援も多機関と積極的に行っている。地域住民と協働し、地域に根ざした居場所づくりの一端を担う取組は、非常に有意義である。

課題対応取組報告書

名称	あいりん地域総合相談窓口				
提出日	令和	8	年	6	月 26 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等	☒ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（	）
活動テーマ	ひとり暮らし高齢者の居場所をつくり、関係機関とつながる事で支援の輪を広げる	
地域ケア会議から 見えてきた課題	ひとり暮らし高齢者が多く、地域とのつながりや親族関係が希薄であり、社会参加への意欲が無い人が多い。 住環境は3畳一間などが多く、自室でゆっくり過ごす等は出来ず、毎日外へ出ているが、居場所もなくアルコールやギャンブルに依存する人も多くなり、生活が破綻している人も多い。 介護事業所が決まっているアパート等が増えており、本人から相談を受けても、あいりん地域総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）の支援ではなく、決まった介護事業所が支援と言われる事が出てきており、本人の意向に沿った支援を受けにくくなっている	
対象	あいりん地域に住む高齢者	
地域特性	・ひとり暮らし高齢者、生活保護受給者や低年金者が多い。 ・住環境は、簡易宿泊所転用型が多く、管理が行き届かない所も多い。 ・地域とのつながりや、人間関係は希薄である。 ・医療や介護に繋がりにくい人も少なからずいる。 ・介護事業所が決まっているアパート等が増えてきた。	
活動目標	・ラジオ体操や百歳体操、ポッチャ等を定期開催。 ・社会参加への意欲を引き出せるような行事や居場所づくりを視野においた行事を市民館と共催企画する。 ・広報誌の定期作成、配布により、地域との連携強化。 ・誕生日カードの配布で定期的な関わりの継続。 ・各アパート等の介護事業所の確認を行う。	
活動内容 (具体的取組)	・毎週水曜日午後4時から仏現寺公園にてラジオ体操を実施し、平均12～13人の参加（7月～9月末までは熱中症対策として市民館3階講堂にて実施） ・毎週木曜日午後3時から市民館3階講堂にて百歳体操を実施し、平均12人の参加 ・毎月2回ポッチャを市民館3階講堂にて実施し、平均14～15人の参加 ・毎月第3金曜日は映画上映会を市民館3階講堂にて開催し、平均20人の参加 上記以外にも不定期で講座を開催し、食の健康講座、リハビリテーション講座、ほっこり運動会、カラオケ大会、忘れん坊教室（認知症講座）等、様々な分野で地域の高齢者の関心を引くものを考えて開催した。 ・誕生日カードの配布（30人程度）、あいりんランチの広報誌の作成をし、地域の関係機関等に200部配布している。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	1年間のラジオ体操参加延べ人数は314人、百歳体操延べ参加人数は358人、ポッチャ延べ参加人数は323人、映画上映会参加延べ人数は226人、不定期開催の講座の延べ参加人数は186人であり、居場所づくりとしての場の提供や社会参加の機会の提供、ランチ職員や市民館職員とのつながりなどが出来る事で、困った時にはいつでも相談出来るという安心感の提供も出来ている。誕生日カードの配布により、ゆい見守りが継続出来ており、困った時にすぐに支援が出来る様に本人の状況把握をしている。ケアマネジャーへもラジオ体操や百歳体操、ポッチャの周知をしたことで、担当している高齢者の参加につながった。 各アパート等の介護事業所を把握することで、スムーズに介護保険サービスの利用に繋げる事が出来た。	

今後の課題	行事への参加者が固定化している。新しくなった四角公園を利用するなど、場所を変えての行事の開催等を検討することで新たな参加者を増やすことが必要。介護事業所が決まっているアパート等は、本人が使いたい介護事業所かどうか分らず、介護事業所変えるなら転居が必要となる。（行政からの指導等が必要と思われる）
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和8年7月15日(水)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☐ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	ひとり暮らし高齢者が特に多い地域特性を捉え、住民の関心を引く多様な企画や居場所づくりの展開により、社会参加への効果的な動機付けを促している。誕生日カードの配布等の継続的な見守りは、相談しやすい環境や信頼関係構築に寄与している。